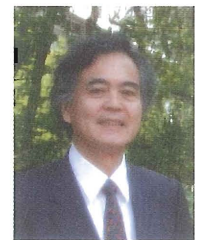


目次

- 理工融合と産学連携…1
- 活動報告…2
- 会員企業訪問記…8
- 埼玉大学の研究シーズ紹介…10
- 埼玉大学創立60周年記念事業紹介…12
- 平成20年度・出願特許一覧…14
- お知らせ…15
- 第6回テクノカフェ…16

## 理工融合と産学連携



埼玉大学 理工学研究科長 水谷忠良

現在の理工学研究科は、国立大学が法人化された2年後の平成18年(2006)に理学系と工学系が統合改組して発足しました。それまで、博士後期課程(博士課程)だけは理化学研究所との連携のもとに、「理」と「工」の共同運営の形でしたが、学生の多くが所属する「学部」と博士前期課程(修士課程)は別々の運営となっていました。

この改組は全国的な大学院部局化の流れを汲んで行われ、組織の規模拡大による運営の効率化と安定維持、財政的なメリットを視野に入れて行われました。この改組には、また、教育研究面における「理」と「工」の垣根を低くして「理工融合」の促進への期待もこめられていました。

「理工融合」とは、基礎研究が中心の理学系の研究と、実用性を重視した応用研究を特徴とする工学系の研究の交流を意味し、それを契機に新しい研究成果を期待した標語だと言えます。研究の特質あるいは方向性だけではなく、研究の進め方にも、「理」と「工」それぞれの特徴があります。たとえば言うなら、布石から中盤に至るまでゆったりと展開する「碁打ち」になぞらえられるのが理学系の進め方であり、より軽快に、素早く戦闘モードに入る「将棋指し」にも似ているのが工学系の研究の進め方です。このように異なる特徴を相容れないものとして拒絶するのではなく、違いを認めあい、むしろ、長所として理解し合って、ときに「融合」の第一歩が踏み出され、成果に結びついていくのではないのでしょうか。そのためには、まず、人的な交流や対話の機会が多くあることが有効で大事なことだと思います。

地域企業と埼玉大学が連携して、共同研究を推進し、さまざまなイノベーションの実現を図ることを目的とした産学連携の活動においても同様で、計画が円滑に進み、効果を上げるためには企業側と大学側の相互理解が必要なことはいまでもありません。幸い、埼玉大学地域オープンイノベーションセンターは、地域における産学官連携において中心的な役割を果たすなか、テクノカフェや各種研究会においては、密接な人的な交流を可能にするさまざまな機会を設けておられます。このような機会が有効に活用され、「産」と「学」の互いの特徴が十分理解し合える交流を基に、共同研究が大きく発展し、ビジネスチャンスの創出がうまく成就することを願っています。

私自身の研究分野は、位相幾何学を中心とした幾何学で、数学コースに属しています。産学連携の中心を占める工学系の研究からは、ある意味で最も遠い位置にあり、残念ながら産学連携の経験はありませんが、最近の数学の研究分野の広がりを見ると、比較的近い将来、数学の研究者が産学連携を推進する機会も珍しくなくなるのではないかと考えています。

# 活動報告

地域オープンイノベーションセンター  
産学官連携推進副部門長

木下 裕美

## 第8回産学官連携推進会議

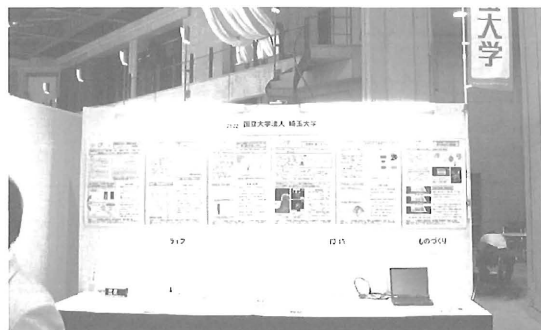
産学官連携推進会議は、産学官連携の飛躍的推進に向けた具体的な課題の解決に資するため、第一線のリーダーや実務経験者等を中心に、具体的な課題についての研究協議、技術移転、情報交換、対話・交流等を行うことを目的に開催されています。毎年、京都国際会館で開催され、会議と同時に、大学を中心とした産学官連携機関の展示も行われるなど、関係者が一堂に会する一大イベントです。

第8回の会議では、冒頭に、麻生総理大臣（当時）からの産学官連携によるイノベーションへの期待を込めた挨拶、その後、野田聖子内閣府特命担当大臣（科学技術政策）（当時）より「オープンイノベーション型の産学官連携による新たな挑戦」と題する基調講演がありました。第7回会議から“オープンイノベーション”というキーワードが多く出てきていましたが、この基調講演では国の政策として“オープンイノベーション”の取り組みを支援することが話されました。本センターも昨年度から「地域オープンイノベーションセンター」と改称し、地域の“オープンイノベーション”を推進する中核拠点となることを目的の1つとしています。今後、“オープンイノベーション”が一層重要になると考えられるとともに、本センターもまたその存在が重要になってくると感じました。また、全体を通して、環境エネルギー技術をテーマとして取り上げているものも多く見受けられました。その後、参加者が6つの分科会に分かれて各テーマを討議しました。私が参加した分科会V「元気な大学・中小企業・ベンチャーが牽引する地域活性化」では、世界に通用するイノベーションを地域から創出するための取り組みについて、大学、支援機関、ベンチャーなどのパネリストが意見交換を行いました。

シーズを事業化する、ニーズから技術開発する、どちらにしてもイノベーションを創出するためには多くの「力」が必要となり、そのためにはネットワークが重要な成功の鍵となります。幅広いネットワークを持ち、それを活かせるマネジメント能力を有するコーディネーター育成が大きな課題であると感じました。



展示会場を回る野田聖子特命担当大臣（当時）



埼玉大学の展示ブース



分科会Vの風景



本学の展示ブースを訪れた  
関東経済産業局吉澤雅隆地域経済部長

- 〔日 時〕 平成21年6月20日(土) 9:00~18:30(夕刻に交流会開催)、  
21日(日) 9:00~12:30
- 〔開催場所〕 国立京都国際会館
- 〔主催〕 内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、(社)日本経済団体連合会、日本学術会議
- 〔開催趣旨〕 「オープンイノベーション型の産学官連携による新たな挑戦～環境・資源制約などの世界が直面する様々な制約への対応を成長の糧に～」をテーマにした提言を取りまとめる
- 〔参加人数〕 約4500名
- 〔展示〕 大学、企業、支援機関等の研究紹介(本学はライフ、環境、ものづくりのテーマでポスター展示)

## 次第、プログラム等

## ◆6月20日(土)

9:45~9:50	①開会 麻生総理(当時)からのメッセージ
9:50~10:15	②基調講演 野田 聖子/内閣府特命担当大臣(科学技術政策)(当時)
10:15~11:05	③特別講演 デニス・メドウズ/ニューハンプシャー大学 名誉教授、インタラクティブラーニング研究所代表 「Innovation of social structure to make harmonious coexistence with the constrained environment and resources」 佃 和夫/三菱重工業(株)代表取締役会長、(社)日本経済団体連合会 副会長 「低炭素社会の実現に向けた産学官連携」
11:05~12:00	④特別報告 堀場 雅夫/全国イノベーション推進機関ネットワーク会長、(株)堀場製作所 最高顧問 「全国イノベーション推進機関ネットワークの取組～クオリア時代～」 富田 孝司/東京大学先端科学技術研究センター 客員教授、元シャープ(株)常務取締役 「産学官連携による太陽電池産業の育成と日本の今後の成長戦略プラン(ニューサンシャイン計画の成果から将来のエネルギー戦略を探る)」 妹尾聖一郎/東京大学 特任教授(知的資産経営)、NPO法人 産学連携推進機構 理事長 「イノベーションイニシアチブ：日本を救う処方箋を考える」 広瀬 研吉/(独)科学技術振興機構 理事 「産学官連携プロジェクトの説明」
12:00~13:30	昼食・休憩 (若手研究者による科学技術説明会、ワークショップ等)
13:30~15:15	⑤分科会 Ⅰ「低炭素社会移行に向けての産学官の新しい潮流」 Ⅱ「プロパテントからプロイノベーション時代へ～競争力強化に資する知財マネジメントの意味が変わる～」 Ⅲ「ナノテクノロジー 多様性と集中の戦略～世界的ナノテック拠点形成と産学官連携の強化～」 Ⅳ「新しい社会を拓く高度理工系人材の育成」 Ⅴ「元気な大学・中小企業・ベンチャーが牽引する地域活性化」 Ⅵ「地域の産学官連携活動を支える基盤の整備」
15:15~15:45	コーヒーブレイク
15:45~16:45	⑥産学官連携功労者表彰
16:55~18:25	⑦全体会合 Ⅰ. 各分科会の報告、パネルディスカッション(フロアとの意見交換を含む) Ⅱ. 提言の取りまとめ ・座長：相澤 益男/総合科学技術会議議員 ・コメンテータ：尾身 幸次/衆議院議員、元科学技術政策担当大臣 ・奥村 直樹/総合科学技術会議議員
18:25~18:30	⑧閉会
18:45~20:15	交流会(会費制)

## ◆6月21日(日)

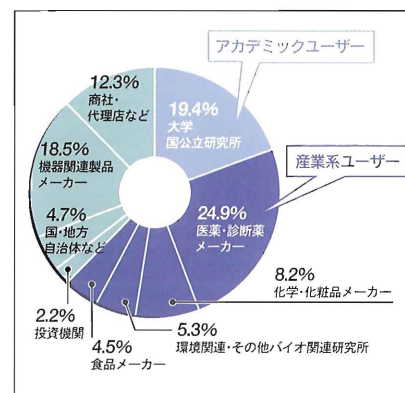
9:00~12:30	エキシビション・セッション(出展団体等によるプレゼンテーション、若手研究者による科学技術説明会等)
------------	---------------------------------------------------



## 第8回国際バイオEXPO

平成21年7月1日から3日間、アジア最大のバイオ展、国際会議として、東京ビッグサイトで開催され、過去最多の20,618名が来場登録したと発表されています。本展示会は、医薬・食品・化学メーカーなどの産業系ユーザーの他、大学・国公立研究所などのアカデミックユーザーも多数、出展・参加しており、技術相談・商談の場として活用されています。バイオアカデミックフォーラム～大学・国公立研究所による研究成果発表フォーラム～の展示ブースでは、全国168におよぶ大学・国公立研究所の研究者が、プレゼンテーションやポスター展示を通じ、最新研究成果を発表しました。埼玉大学は「埼玉バイオプロジェクト」の「タンパク質の高速分子育種を基盤技術とする先端バイオ産業の創出」テーマのメンバーとして、展示、セミナーを実施しました。セミナーは、下記の内容で、50名程の座席が満席で、立ち見の方もおられるほどの盛況でした。

- (1) 埼玉バイオプロジェクトの概要  
(財)埼玉県中小企業振興公社 草木 稔篤 科学技術コーディネーター)
- (2) 研究内容について  
(埼玉大学総合研究機構 伏見 譲 特任教授)
- (3) テーマ1：REDS研究抗体グループの技術的な新規性・優位性  
(東京大学大学院 総合文化研究科 太田 邦史 教授)
- (4) テーマ2：ペプチドアダプターによる創薬挑戦  
(埼玉大学大学院 理工学研究科 西垣 功一 教授)
- (5) 共同研究：カイコを用いた高品位タンパク質生産技術  
(片倉工業(株) 生産科学研究所 宇佐美 昭宏 所長)
- (6) 共同研究：DNAアダプター自動創出リアクター、微量検体移送装置の開発  
(株)ライフテック 研究開発部 武居 修 氏)
- (7) 埼玉県の産学官連携  
(埼玉県産業労働部新産業育成課 荏原 美恵 主査)



バイオ関連業種別 来場者登録数内訳  
(<http://www.bio-expo.jp/bio/jp/exhibit/merit.phtml>)

- 日 時 平成21年7月1日(水)～3日(金)  
10:00～18:00 (3日のみ～17:00)
- 開催場所 東京ビッグサイト
- 主催 リード エグジジション ジャパン
- 開催趣旨 世界各国のバイオ関連企業614社による最新機器、技術の紹介、168名の研究者による最新成果の発表。アジア最大規模のバイオイベント
- 参加人数 20618名 (3日間合計)
- 展示 出展：614社
- 講演会
- ◆ 基調講演「抗体・ワクチン開発の新展開～化学と生物学を融合する新たな製薬企業をめざして～」  
座長：東京大学 名誉教授/SBIバイオテック(株) 代表取締役社長 新井 賢一氏
  - ◆ 「抗体医薬開発の最前線～より有効な生物製剤の構築：活性型改変抗体を事例にして～」  
Peter Kiener氏/MedImmune/Research & Development, Executive Vice President
  - ◆ 「新時代を迎えた医薬品の研究開発」  
山崎 達美氏/中外製薬(株)/取締役 専務執行役員
  - ◆ 「ヒトのウイルス感染とそのコントロール～先端HIV研究から学ぶ～」  
Robert C. Gallo氏/Institute of Human Virology of the University of Maryland School of Medicine/Director and Professor



セミナーは立ち見が出るほどの盛況を博した



研究概要について語る埼玉大学 伏見 譲 特任教授



## 第3回オープンフォトリクスセミナー2009

本年5月より埼玉大学総合研究機構地域オープンイノベーションセンターと(財)埼玉県中小企業振興公社主催で「オープンフォトリクスセミナー2009」を開講している。

埼玉県には多くの光学関連企業があり、優れた製品を製造販売している。このような企業による約250社が参加し、地域の活性化を目指して「埼玉オプトビレッジ構想推進事務局」が埼玉県中小企業振興公社内に設置され活動している。一方、埼玉大学に於いては直接、間接に「光」に関与している先生方が多数おり、鎌田憲彦教授をまとめ役として「埼玉大学オープンフォトリクス研究会」を結成して、光学関係の国際シンポジウムや研究会を開催している。

今回の「オープンフォトリクスセミナー2009」は「埼玉大学オープンフォトリクス研究会」と「埼玉オプトビレッジ構想推進事務局」が協力して、埼玉オプトビレッジ構想に参加している企業の方々との交流を深め、積極的にフォトリクスの学問、技術基盤の啓蒙活動を行いたいとの意向のもとで開催された。

北与野の新都心ビジネス交流プラザでの2回のセミナーに続いて、第3回目としてセミナー講師である埼玉大学の先生方の研究室の見学と、親睦と情報交換のための懇親会が開かれた。見学会後のアンケートによると、研究内容が専門外の方にとっては難しかったというご意見があった。他方、①研究の内容が面白かった。②実務に近いテーマで理解しやすかった。③業務に役立ちそうである。とのご意見も戴いている。休憩時間がなく、タイトなスケジュールであったが、全般的には大変勉強になったというご意見で有意義な見学会であった。

- 〔日 時〕 平成21年7月17日(金) 14:00~19:50  
 〔開催場所〕 埼玉大学 各研究室(見学会)および大学会館「きゃら亭」(懇親会)  
 〔主 催〕 埼玉大学、(財)埼玉県中小企業振興公社  
 〔開催趣旨〕 「オプト(光学)のことなら埼玉」という地域産業ブランドを形成する、埼玉オプトビレッジ構想推進事業の一環として開催  
 〔参加人数〕 45名(懇親会42名)

## 次第、プログラム等:

## 【第1部 研究室見学会】

- 14:00 開会挨拶 埼玉大学大学院理工学研究科 鎌田 憲彦教授  
 14:15~17:00 研究室見学(4グループに分かれ、8つの研究室を見学)  
 ・門野(マジャロバ)研究室・池野研究室・谷治研究室・内田研究室  
 ・矢口研究室・高橋研究室・酒井研究室・鎌田、福田研究室

## 【第2部 懇親会(大学会館「きゃら亭」)】

- 17:30~19:50 司 会 埼玉大学大学院理工学研究科 鎌田 憲彦教授  
 挨拶・乾杯 財団法人埼玉県中小企業振興公社 堀江 明常務理事  
 中締め 埼玉大学地域オープンイノベーションセンター  
 太田 公廣センター長



セミナー講師の研究室8か所を見学した



情報交換と親睦を図る場として懇親会が開かれた

## 首都圏北部4大学発 新技術説明会報告

平成21年7月14日(火)及び15日(水)、東京市ヶ谷のJSTホールにて、首都圏北部4大学(4u)発新技術説明会が開催されました。発表したテーマは、医薬・バイオ等下記プログラムに詳細を示すとおりの合計20テーマ、そのうち本学からは5テーマでした。今回は、従来の年度後半・週末開催を、年度前半・週の半ば開催へと変更し、企業の皆様により参加しやすいスケジュールとしました。これが功を奏してか、開催初日の7月14日は関東地方の梅雨明けが発表された暑い日にもかかわらず、補助席が必要な程の盛況さでした。

参加者のプロフィールを見ますと、電器・精密機器や化学品をはじめとした幅広い業種の方々でした。企業環境が急激に悪化した中、大学技術の活用により新たなビジネスを創出しようと、技術シーズの探索や関連技術の情報収集、共同研究開発を狙いに参加いただき、発表者との個別相談会も活発に行われました。

このほか、両日4u関係者から、4大学がシナジー効果を発揮し潜在的な社会のニーズに合致したシーズ創出とその発信等、特色ある産官学連携と新技術開発を進めていることが紹介されました。

## 次第、プログラム等：

## ◆7月14日(火) 10:00~17:00

10:00~10:10	主催者挨拶	首都圏北部4大学連合(4u)運営協議会主査/国立大学法人群馬大学研究・国際交流担当理事兼副学長 和泉 孝志氏 独立行政法人科学技術振興機構 審議役 小原 満穂氏
10:10~10:30	首都圏北部4大学の産学官連携活動紹介	首都圏北部4大学連合(4u)運営協議会副事務局長/宇都宮大学 知的財産センター長 山村 正明氏
10:30~11:00	<材料>環境を考慮した酸化亜鉛透明導電膜のプラズマ低温合成法	茨城大学 大学院理工学研究科 応用粒子線科学専攻 准教授 佐藤 直幸氏
11:00~11:30	<ライフサイエンス>音声をういたカラス忌避装置	宇都宮大学 オプティクス教育研究センター 特任研究員 塚原 直樹氏
11:30~12:00	<ライフサイエンス>SHPS-1リガンドを利用した免疫疾患治療法の開発	群馬大学 生体調節研究所 バイオシグナル分野 教授 的崎 尚氏
12:00~13:00	昼休み	
13:00~13:10	研究成果の実用化に向けて~JSTの産学連携・技術移転支援事業のご紹介~	科学技術振興機構 技術移転総合相談窓口
13:10~13:40	<ライフサイエンス>新規蜂蜜の開発	埼玉大学 大学院理工学研究科 生命科学部門生体制御学 教授 菅原 康剛氏
13:40~14:10	<電子・材料>半導体集積回路の性能向上のための計算機シミュレーション	茨城大学 工学部 マテリアル工学科 准教授 篠嶋 妥氏
14:10~14:40	<電気・電子関連>電界殺菌を有するエアフィルタ	宇都宮大学 大学院工学研究科 電気電子システム工学専攻 教授 長澤 武氏
14:40~14:50	コーヒーブレイク	
14:50~15:20	<ライフサイエンス>イリジウム錯体のりん光を利用した酸素濃度センサー	群馬大学 大学院工学研究科 応用化学・生物化学専攻 教授 飛田 成史氏
15:20~15:50	<ライフサイエンス>糖鎖クラスター効果を基盤としたバイオセンサーの新開発	埼玉大学 大学院理工学研究科 物質科学部門 講師 幡野 健氏
15:50~16:20	<バイオ>貧栄養環境での芳香族化合物分解能を有する新規光合成生物	茨城大学 大学院理工学研究科 ベンチャービジネスラボラトリ 非常勤研究員 西澤 明人氏
16:20~16:50	<バイオ・材料>微生物の病原性抑制効果を有する新規シクロデキストリン誘導体	宇都宮大学 大学院工学研究科 物質環境化学専攻 助教 伊藤 智志氏
16:50~17:00	閉会挨拶	首都圏北部4大学連合(4u)運営協議会副主査/国立大学法人埼玉大学研究・情報担当理事兼副学長 川橋 正昭氏



- (日 時) 平成21年7月14日(火)、15日(水) 10:00~17:00
- (開催場所) 科学技術振興機構 JSTホール
- (主催) 首都圏北部4大学連合(埼玉大学、群馬大学、宇都宮大学、茨城大学)、科学技術振興機構
- (開催趣旨) 各大学の研究者が企業関係者を対象に、大学発のライセンス可能な特許の技術説明を行う
- (延べ来場人数) 877人
- (展示) 首都圏北部4大学(埼玉大学、群馬大学、宇都宮大学、茨城大学)における産学連携に関する取り組みや、当日発表以外のシーズのパネル展示



新技術発表会会場における発表風景



4学のパネル展示と技術相談の受付

◆7月15日(水) 10:00~17:00

10:00~10:10	主催者挨拶	首都圏北部4大学連合(4u) 運営協議会副主査/国立大学法人茨城大学 理事・副学長(学術担当) 松田 智明氏 独立行政法人科学技術振興機構 審議役 小原 満徳氏
10:10~10:30	首都圏北部4大学の産学官連携活動紹介	首都圏北部4大学連合(4u) 運営協議会事務局長/群馬大学 研究・知的財産戦略本部 知的財産戦略室長 伊藤 正実氏
10:30~11:00	<ナノテクノロジー・材料>柔軟性に優れた絹フィルム	群馬大学 大学院工学研究科 応用化学・生物化学専攻 教授 河原 豊氏
11:00~11:30	<エネルギー>新規磁気浮上装置	埼玉大学 大学院理工学研究科 人間支援・生産科学部門 教授 水野 毅氏
11:30~12:00	<環境測定>新開発高効率光分解コンバーターを用いた大気二酸化窒素測定	茨城大学 理学部 理学科 地球環境科学コース 准教授 北 和之氏
12:00~13:00	昼休み	
13:00~13:10	研究成果の実用化に向けて~JSTの産学連携・技術移転支援事業のご紹介~	科学技術振興機構 技術移転総合相談窓口
13:10~13:40	<バイオ・材料>新規磁性微粒子を用いた腫瘍細胞破壊方法	宇都宮大学 大学院工学研究科 電気電子システム工学専攻 助教 佐久間 洋志氏
13:40~14:10	<ナノテクノロジー・材料>環境応答型蛍光団を利用した生体関連分子の検出	群馬大学 大学院工学研究科 応用化学・生物化学専攻 助教 山田 圭一氏
14:10~14:40	<計測>新規光学干渉法によるナノメートル微小変位計測システム	埼玉大学 大学院理工学研究科 環境システム工学系専攻 連携教授 門野 博史氏
14:40~14:50	コーヒープレイク	
14:50~15:20	<材料(化学)>ラジカル的アリル化反応を活用する含フッ素化合物の合成	茨城大学 工学部 生体分子機能工学科 教授 久保田 俊夫氏
15:20~15:50	<計測>環境中にある静電磁場を目印とする移動車両の自己位置認識の方法	宇都宮大学 大学院工学研究科 学際先端システム学専攻 准教授 尾崎 功一氏
15:50~16:20	<情報通信>電子デバイス高精度測定用アナログ・デジタル変換器	群馬大学 大学院工学研究科 電気電子工学専攻 教授 小林 春夫氏
16:20~16:50	<計測>高速度カメラを利用した鏡面反射光の分離技術	埼玉大学 大学院理工学研究科 数理電子情報部門 助教 辻 俊明氏
16:50~17:00	閉会挨拶	首都圏北部4大学連合(4u) 運営協議会副主査/国立大学法人宇都宮大学 研究・国際交流担当理事兼副学長 馬場 敬信氏

# 会員企業訪問記27



事務所風景

## 坂戸ガス株式会社

～ガスは創造力のエネルギー～

### 1. はじめに

今回訪問した会社は、昭和46年に設立された坂戸ガス株式会社です。武州瓦斯㈱をはじめとし、東京瓦斯㈱、東武鉄道㈱、㈱埼玉銀行4社の共同出資により、北坂戸団地の開発に伴い、設立されました。基本理念は、「われわれは、公益事業者としての自覚にたち理想的なエネルギーを安全に、安定、サービス良く提供し、地域の皆様の生活向上に貢献する」としています。

### 2 事業内容

当社は、私たちが生活していくうえで必要不可欠のエネルギーである都市ガスを供給しています。当社の供給している天然ガスは、メタンを主成分とする不純物をほとんど含まないクリーンなエネルギーです。また、天然ガスは世界各地に広く豊富に埋蔵されていることから供給安定性が高く、空気よりも比重が軽いため低い所にたまりにくい性質を持ち、安全であるというメリットがあります。地球環境にやさしい都市ガスの供給を行っています。

当社は生活に不可欠なガス供給業者であるがゆえ、地震発生時などの緊急時の対応として、男性社員は一年365日交代で当直勤務を行うなど、24時間体制での安全、安心のサービスを心がけています。

### 3. オール電化に対する対応

今までは家があれば、そこにはガスでお風呂を沸かしたり、ガスを使った火で料理を作ったりということが当たり前でした。しかし最近ではオール電化の波が押し寄せ、電気を使い、ガスが使われなくなってしまうという危惧があります。そこで当社では旧社屋を改装し、最新ガス器具の説明ができるショールームを開設しています。そこで最新のガス調理器、ガス給湯システムなどを体感してもらい、ガスの良さと、電気との違いをお客様に理解していただき、電化対抗とガスの拡販に役立てたいと考えています。このショールーム内には調理設備も整えており、定期的に料理教室を開催するなど、地域活動にも貢献しています。



キッチンスタジオ外観写真

### 4. 社長（原 宏氏）の座右の銘

当社取締役社長である原宏氏は埼玉では著名な経済人であり、埼玉新聞の記事から多くの座右の銘を知ることができました。その言葉が今の坂戸ガスの社員の皆さんに受け継がれているように感じました。その一端を紹介します。

「利に走っちゃいかん」、「早い手遅れなし」

前者の言葉は、会社は利を追求しなければならないところではあるが、それだけではなく地域社会に対しての貢献もしないといけないという考えからだそうです。この考えから当社ではスポーツ活動の支援などを通して地元のまちづくりの手伝いをおこなっています。

後者の言葉は現場を常に見て、現場が何を要求しているかを早急に、的確にとらえ先延ばしすることなく早めに対応していかなければいけないという考えからだそうです。

原宏社長は、会社に対しては、自身の地元であることもあり特別の思いがあるそうです。現在も社員に経営に対する姿勢として前述の座右の銘をお話されると伺いました。今まさに、「ガス」を取り巻く環境は変化しています。けれども、そのなかでも「お客様との心のつながりを大切にし続ける」坂戸ガスは、これからも、地域から愛され続け、地域とともに発展する、地域に不可欠な存在であると感じました。



取締役 総務部長 永森円拡氏（左）と常務取締役 富樫幸雄氏（右）

企業名：坂戸ガス株式会社

本社所在地：350-0272 埼玉県坂戸市末広町3-5

連絡先：TEL 049-284-9000 FAX 049-284-2101

設立：昭和46年9月6日

資本金：1億5千万円

従業員数：60名

代表者：代表取締役社長 原 宏

業務内容：都市ガスの供給・販売・管工事  
ガス機器の販売・修理

対応者：常務取締役 富樫 幸雄 氏

取締役 総務部長 永森 円拡 氏

訪問者：大学院理工学研究科2年 巖倉 和寛

産学官連携推進部門長 木下 裕美

訪問日：平成21年6月24日





株式会社マスダック本社

# 株式会社マスダック

～そのお菓子づくりを、もっと美味しく、新しく～

## 1. はじめに

株式会社マスダックは優れたメカトロニクスと柔軟な発想力を持ち合わせた製菓用機械メーカーのリーディングカンパニーです。1957年の創業以来たくさんの人を幸せにしたいという願いのもと、お菓子づくりのための機械を製造し続けてきました。また、パティシエとの共同開発による新しいお菓子の提案も行い、機械メーカーという枠組みを越えて、お菓子と人の喜びを追求しています。

## 2 人を幸せにするお菓子づくり

マスダックの原点は創業者である増田文彦氏が全自動まんじゅう製造機を実演販売した際に見た人々の笑顔にあります。そのときに得た“お菓子が人を幸せにする”という感動は50年以上経った今なお、より多くの人に手ごろな価格でおいしいお菓子を提供できる機械をつくるための熱意の源になっています。通常機械メーカーといえば、自動化による合理化を目指すのが普通ですが、そのために味や品質が落ちる事は頻繁にあります。しかし、お菓子の事を知り尽くしているマスダックでは、最終的にお菓子を味わっていただく人のために、多少の不都合を選んだとしても味や品質を最優先させた機械をつくるというこだわりがあります。言い換えれば、機械によってつくれるお菓子をつくるのではなく、つくりたいお菓子のためにふさわしい機械を製造する事を目指しているのです。

現在ではヨーロッパやアジア等、国際的な事業展開にも力を注ぎ、和洋菓子のオープン、充填成型機、直焼焼成機の専門メーカーとして世界のトップを目指しているそうです。ヨーロッパの製品はシンプルかつ合理的で、デザイン性に優れているため、手ごわい競争相手でもありますが、機械の持つ性能はまったく負けていません。一方で中国企業への生産ラインのノウハウの提供も行い、アジアでの存在感も徐々に大きくなってきています。

また、食の安全は人々の共通の関心事でもあり、お菓子業界にとっても重要な課題の一つとなっています。そこで、安心してお菓子を食べられる環境を実現するために、ISO9001:2000の認証を受けているだけでなく、自社で運営する菓子工場ではAIBフードセーフティシステムの導入やトレーサビリティシステムの運用・構築も行っています。



システムデポリー  
エボリューションII

## 3 おいしいお菓子をつくるために

顧客の求める機械を製造するためには、何よりもまずお菓子についての知識が必要になります。そのため、最近の市場の動

向やお菓子業界の情報を取り揃えることはもちろん、機械によるお菓子の試作ができる設備を整えた「アトリエ」があります。この「アトリエ」はつくりたいお菓子を顧客とともに考え、よりよいパートナーシップを構築していく際に重要な役割を果たしています。

実際に機械を設計・製造・販売するためにはやはり、社員一人一人の力も重要です。情報を隠さない透明な人事による公正な評価や、専門職と管理職の立場を対等にするシステムがあり、社員の働く意欲の向上にも努めています。さらに、これからの時代を担う若手の育成にも余念はありません。会社説明会に社長自ら出席し、経営理念に対して賛同するか、働きたいという意欲があるかどうかを徹底的に見極めているそうです。また、各個人のやりたい仕事に対して議論を重ね、納得した上で業務分担を行い、能力に合わせた無理の無い人材育成を行っています。

## 4 おわりに

最後に、取材に協力していただいた増田文治社長、水沢雅津夫執行役員部長、企画広報課の星野謙一氏、およびマスダック社員の皆様がこの場をお借りしてお礼を申し上げます。ありがとうございました。



代表取締役社長 増田文治氏 執行役員部長 水沢雅津夫氏

企業名：株式会社マスダック  
 本社所在地：〒359-1147 埼玉県所沢市小手指元町1-27-20  
 連絡先：TEL 04-2948-0161 FAX 04-2948-3212  
 設立：1957年3月  
 資本金：2億1000万円  
 従業員数：240名  
 代表者：代表取締役社長 増田 文治  
 主な業務内容：製菓機械の開発・製造・販売、メンテナンス  
 菓子の研究開発・製造・販売  
 取り扱い製品：直焼焼成機・充填成型機・オープン・他

対応者：代表取締役社長 増田 文治 氏  
 執行役員部長 水沢 雅津夫 氏  
 総合企画部 企画広報課 星野 謙一 氏  
 訪問者：大学院理工学研究科1年 生井 諭司  
 産学官連携推進部門長 木下 裕美  
 訪問日：平成21年9月4日

# 埼玉大学の研究シーズ紹介

今回は、埼玉県経営者協会（会長 利根忠博、本協議会賛助会員）会報「埼経協ニュース」の記事「埼玉大学研究者との出会いの広場～シリーズ第52回」を転載いたします。

## ●国際協力による地圏環境管理技術の開発●

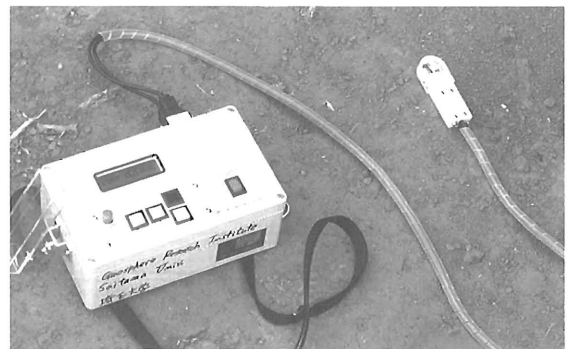
地圏科学研究センター 渡辺 邦夫 教授

地圏という言葉は、人間生活に深く関係する地盤や岩盤を総称した学術用語で、「大地」と言う言葉にほぼ対応します。地圏研究センターは、大地の性質を理解した上で、長期安定的な、また安心かつ安全な社会の基盤を構築する技術開発を行っています。具体的には、突発的に発生する地震などの災害に強い社会基盤、地下水や地盤の汚染を引き起こさない危険廃棄物の地下処分技術の開発、建設材料の長期劣化などを研究しています。

最近、原子力発電所等から出てくる放射性廃棄物など、高度に危険な廃棄物を地下数百メートル以深のトンネル群の中に埋めて処分する「地層処分」が問題となってきました。この場合、廃棄物中の危険物質の漏洩の防止は勿論重要ですが、それ以外にも、トンネル掘削時や廃棄物処分作業中の地下水低下による周辺の環境問題を防止することが必要になります。地下の状態は目で直接見ることが出来ません。そのため、例えば、水圧変化を計って環境への悪影響が発生しないかを常時監視し、異常な現象が発生した場合、早期に対策を講ずる管理が必要となります。問題は、異常現象が発生した初期はその変化も小さく、なかなか原因が特定できず対応を遅らせることです。そのため、変化の原因を特定し異常な変化があれば警告を発するシステムを長年の研究により作りました。このシステムのソフト化を、ネパールのIT技

術者及びIT会社と一緒に進んでいます。これは、国際技術開発ネットワークの第一歩と考えています。なお、この技術は、一般廃棄物処分場の水質管理や土壌汚染浄化の効果判定に適用できます。

この外、水資源や農業開発で問題となる蒸発散を測定する装置などを開発して居ます。写真は、最近開発した携帯型蒸発計です。日本のみならず、タイ、中央アジアでの計測実績があります。



開発した、携帯型蒸発計測装置

## PROFILE



渡辺 邦夫  
(わたなべ くにお)

昭和48年 3月 名古屋大学理学部地球科学科卒業  
昭和49年 8月 埼玉大学助理工学部地盤水理実験施設  
昭和60年 4月 埼玉大学助教授工学部地盤水理実験施設  
平成 9年10月 埼玉大学大学院教授理工学研究科  
平成13年 4月 埼玉大学教授地圏科学研究センター  
現在に至る

### ■産業への展開

- 1 廃棄物処分場周辺の、地下環境の管理
- 2 土壌汚染浄化効果の判定
- 3 水資源開発



● 建造物の動的挙動の解明および最適設計を目指して ●

埼玉大学大学院理工学研究科 渡邊 鉄也 准教授

○産業施設内建造物の耐震設計

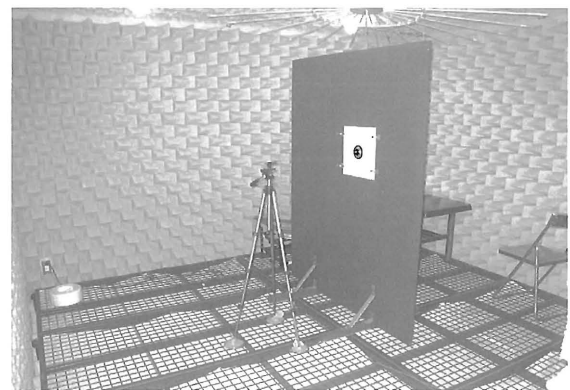
近年、兵庫県南部地震や新潟県中越地震などをはじめとする大規模な地震が多発しており、一般家屋もさることながら産業施設内建造物の被害も多く報告されている。産業施設内建造物は2次的な災害が懸念されるため、一般家屋とは異なる耐震設計基準が定められている。ここ数年、産業施設内建造物の耐震設計において、免震構造が注目されてきている。免震構造としては、積層ゴム、転がり支承、摩擦支承、ベアリング機構を利用したものなどがあり、系を長周期化することにより、地震荷重の伝達を低減させている。転がり支承、摩擦支承などでは、系に摩擦特性が介在するため、その特性によって免震効果が左右される。したがって、摩擦力の調整は非常に重要な要素となっている。そこで、摩擦などの非線形要素が介在する系の簡易耐震設計法を提案している。

でもキャストイングの占める割合は極めて大きい。キャストイングではラインの重さを利用して投げなくてはならないので、ラインを遠くへ飛ばすのは容易ではない。本研究はキャストイングにおけるライン挙動を明らかにし、適切なキャストイング方法を提案するとともに、ロッドやラインの設計に資することを目標としている。また、テニス、ゴルフ、野球に関する研究も遂行している。

その他、耐震・防振のための各種ダンパ、防音のための吸音材に関する研究。衝突音の調査および快音化の研究。筋電や脳波などの生体情報を用いた感性評価。指先の摩擦特性などの研究も行っている。

○スポーツ工学における動的挙動解明

フライフィッシングは従来の日本のフィッシングスタイルとは異なる点でスポーツの1つとして位置づけられてきている。フライフィッシングではラインの重さで疑似餌となるフライを飛ばすという独特な方法をとっているため、フライフィッシングを行う上でキャストイングはマスターしなくてはならない事項である。フライフィッシングはさまざまな要素によって構成されているが、中



無響室

PROFILE



渡邊 鉄也  
(わたなべ てつや)

平成 元年3月 東京都立大学工学部機械工学科卒業  
 平成 3年3月 東京都立大学大学院工学研究科機械工学専攻修了  
 平成 3年4月 東京都立大学工学部助手  
 平成11年4月 埼玉大学工学部機械工学科講師  
 平成13年4月 埼玉大学工学部機械工学科助教授  
 平成19年4月 埼玉大学大学院理工学研究科准教授  
 現在に至る

- 産業への展開
- 1 各種ダンパの開発
  - 2 防振・防音、快音化
  - 3 動的挙動の解明

# 埼玉大学創立

# 60周年記念事業

since 1949  
Saitama University

1949年に教育学部と文理学部の2学部でスタートした埼玉大学は、2009年に創立60周年を迎えました。そこで今年一年、創立60周年記念事業を展開して、学生と教職員がともに、歴史と伝統を振り返り、埼玉大学の一員としての誇りをもって、未来にはばたく機会としたいと考えています。

これから迎える秋にふさわしい60周年記念事業の一部をご紹介します。(埼玉大学総務課広報係)

## ■問合せ先

埼玉大学総務課広報係  
http://www.saitama-u.ac.jp  
〒338-8570 さいたま市桜区下大久保255  
TEL 048-858-3932 FAX 048-858-9057  
E-mail: koho@gr.saitama-u.ac.jp

## スポーツの秋!

### 「60周年だから聞ける 「埼玉大学・スポーツ・感動物語」

主催 埼玉大学教育学部

後援 さいたま市桜区

埼玉大学と関連の深いスポーツの歴史やエピソードを4回の講演で綴ります。

\*第2回のみ、開催時間が異なりますので、ご注意ください。

10/18(日) 14:00~16:00

#### 第1回 柔道メダリストを育てて

コーディネイト・講演  
野瀬清喜教育学部教授  
(1984年ロサンゼルス・オリンピック男子柔道86kg以下級銅メダリスト)



愛弟子の池田ひとみ選手と  
(2004年世界ジュニア優勝)

11/7(土) 14:00~16:00

#### 第3回 ダンス日本一への道

コーディネイト・講演  
細川江利子教育学部教授  
(埼玉大学ダンス部顧問2006年、2008年全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)創作コンクール大学の部NHK賞受賞)



11/1(日) 10:00~12:00

#### 第2回 箱根駅伝と陸上物語

コーディネイト・講演  
有川秀之教育学部教授  
(2008年北京オリンピック男子陸上競技支援役員)



12/6(日) 14:00~16:00

#### 第4回 浦和でサッカーに生きる

コーディネイト・講演  
菊原伸郎教育学部講師  
(元浦和レッズ選手)



会場 さいたま市プラザウエスト 多目的ルーム さいたま市桜区道場4-3-1 TEL 048-858-9080

定員 200名/先着順 **入場無料**

アクセス JR浦和駅西口から路線バス「桜区役所」下車

JR西浦和・中浦和駅からさいたま市コミュニティバス(桜区役所循環)「桜区役所」下車

## 記念グッズ制作・販売

埼玉大学生協同組合では60周年の趣旨に合わせ、記念グッズの第一弾として、埼玉大学饅頭(6個入850円)、さくらリーフパイ(7枚入840円)を開発しました。現在好評発売中です。この他にも、記念グッズを順次開発・販売していく予定です。



## 食欲の秋!





## 歴史の秋!

# 歴史で綴る埼玉大学企画展

10/24(土)~11/7(土)

10:00~16:00

### 埼玉大学60年の歩み

埼玉大学同窓会連合会との共催

各学部などに保存されている講義資料や実験器具など、往時を偲ぶ品々を展示し、これまで埼玉大学が歩んできた足跡に触れて、60年の歴史を体感していただきます。

会場 埼玉大学図書館2F 図書館展示コーナー及び2-3F階段

入場無料

10/24(土)~11/7(土)

10:00~16:00

### 埼玉大学埋蔵文化財収蔵品展

主催 埼玉大学埋蔵文化財資料室

現在、埼玉大学埋蔵文化財資料室には、埼玉大学構内本村遺跡出土遺物をはじめとして、国内外の埋蔵文化財資料が多数保管されています。埼玉大学創立60周年を契機に、本学における埋蔵文化財の調査・研究を理解していただくことを目的として、特別展「埼玉大学埋蔵文化財収蔵品展」を開催します。

会場 埼玉大学図書館3Fホール 入場無料

10/24(土)~11/7(土)

10:00~16:00

### 旧制浦高記念資料室・貴賓室公開

1949年の学制改革により誕生した埼玉大学。その母体の一つである旧制浦和高等学校の同窓会が今年3月、惜しまれつつその幕を閉じました。埼玉大学では、旧制浦和高等学校同窓会から寄贈していただいた貴重な資料を整理し、今後、常設の資料室を用意して特別展示をするとともに、関係資料の収集を図ることとしています。この企画展示は、資料室のオープニング記念展示として開催します。

会場 埼玉大学図書館3F「旧制浦高記念資料室・貴賓室」 入場無料

11/26(木)~12/10(木)

10:00~16:00

### 埼玉県師範学校(1874~1951)から浦和レッズまで

主催 教育学部歴史展示コーナー開設事業委員会(仮称)  
後援 浦和レッズ

浦和レッズのエンブレムには、教育学部の前身である埼玉師範学校校舎『鳳翔閣』がモチーフとして使われています。埼玉県師範学校関係史料から浦和レッズ・エンブレムまでを歴史系列的に展示・解説することによって、埼玉大学教育学部の135年の歴史を紹介します。

会場 教育学部コモ棟1階ギャラリー 入場無料

## 音楽の秋!

# 創立60周年記念コンサート・シリーズ

11/15(日) 15:00開演(14:30開場)

### 第6回埼玉大学フレッシュコンサート

埼玉りそな銀行との共催

教育学部音楽専修生の日頃の成果を発表し、市民の方々に提供する「埼玉大学フレッシュコンサート」も、今年で6回目を迎えることができました。学生たちはコンサートに向け日夜練習に励んでおります。どうか彼らを暖かく見守り、ご来場くださいますようお願いいたします。



会場 埼玉りそな銀行本店講堂(北浦和駅西口より徒歩7分)

定員 小学生以上300名/先着順 入場無料

12/12(土) 14:00開演(13:30開場)

### 第10回音楽の贈りもの

「音楽の贈りもの」は、埼玉大学教育学部音楽教育講座教員によるコンサートです。声楽、フルート、ヴァイオリン、ピアノの演奏、新作歌曲の初演、とバラエティ豊かな内容です。どうぞご期待ください。



会場 彩の国さいたま芸術劇場音楽ホール(与野本町駅より徒歩7分)

定員 小学生以上600名/先着順 入場無料



埼玉大学が出願している特許を紹介します。地域オープンイノベーションセンター知的財産・技術移転推進部門では、知的財産を有効活用していただくための支援を行っています。

【問い合わせ先】 ■埼玉大学地域オープンイノベーションセンター 知的財産・技術移転推進部門  
知的財産シニアコーディネーター 角田 敦(事務窓口・日下)  
TEL:048-858-9106 e-mail:chizai@ml.saitama-u.ac.jp

## ライフサイエンス

管理番号	発明の名称	応用分野・利用市場	発明者
0809-19	消化管運動機能物質のスクリーニング方法	消化管運動機能物質、特に、モチリンのアゴニスト又はアンタゴニストのスクリーニングが可能となる。消化管運動における生理機能を解析する上で、インビトロ及びインビボのいずれにおいても利用可能な非ヒト動物系として、はじめて確立された系である。従って、ヒトの消化管運動機能障害、特に、モチリンの異常(過少又は過剰)分泌に伴う諸疾患の予防又は治療薬のスクリーニングにおいて優れた効果を発揮するものである。	坂 井
0809-21	ペプチドとタンパク質の結合部位を予測する方法、装置、およびプログラム	ペプチドとタンパク質の結合部位を予測するドッキング予測方法において、計算時間を大幅に短縮し、且つ、妥当な予測結果を得ることのできる方法の提供。	相 田
0802-39	チオシアロシド型オリゴ糖を含む糖鎖テンドリマーの製造方法およびその利用	タミフルR(リン酸オセルタミビル)耐性ウイルス対応インフルエンザ薬。インフルエンザウイルスのノイラミニダーゼ活性を有効に阻害する、抗インフルエンザ薬の開発。	松 岡
0803-41	シアリル $\alpha$ (2→6)ラクトース含有化合物及びその使用	シアリルラクトース誘導体と炭化水素鎖の化合物による抗ウイルス剤、特にインフルエンザ感染阻害剤の開発。	松 岡
0804-02	シアル酸誘導体の製造方法とインフルエンザウイルス阻害剤としての利用	皮内、皮下、経口(例えば、吸入なども含む)、経皮及び経粘膜への投与を含み、治療上適切な投与経路に適合するように製剤化可能。	松 岡
0807-10	蛍光性アミラーゼ基質及び該基質を用いたアミラーゼ活性測定方法	本発明の基質又は該基質を含有する試薬を用いると、従来法に比較して、アミラーゼの検出感度を顕著に向上させることができる(例えば、フルスターチ法と比較して、約10倍程度)。また、本発明のアミラーゼ活性測定方法を用いると、アミラーゼアイソザイム(例えば、P型、S型)の識別が可能となる。	松 岡
0809-20	ウイルス、微生物類の検出方法	感染症の原因病原体の検出及び同定をさらに迅速かつ正確に行うために、従来方法とは異なる方法論に基づいた新たな手法の開発に期待が寄せられている。そこで、本発明は、感染病原体を迅速かつ正確に検出及び同定する方法、及び該方法に使用される試薬又はキットの提供を目的。	幅 野 松 岡

## 情報通信

管理番号	発明の名称	応用分野・利用市場	発明者
0801-35	メタ情報付与システム、メタ情報表示システム、およびこれらのプログラム、および当該プログラムを記録したコンピュータ読み取り可能な記録媒体	従来よりもユーザの利便性を高めることができるメタ情報付与システム、メタ情報表示システム、およびこれらのプログラム。俯瞰することのできる観光地図、計測地図など。	川 崎
0804-03	画像処理装置、画像処理方法およびプログラム	動きのあるシーンや物体を密に三次元計測可能。	川 崎
0812-30	高速度カメラ画像処理装置、画像処理方法および高速度カメラ装置	一瞬の動きや短時間の高速現象を撮影する高速度カメラの画像から鏡面反射を除くことが可能であり、高速度カメラの画像を用いて、人の動き、動植物の変化、車の衝突など様々な高速現象を解明する分野に適用可能。	辻
0805-08	情報処理装置、データ編集システム、データ編集方法およびプログラム	文書データを検索し、検索された文書データを編集して作成される著作ファイルを登録し、前記著作ファイルにリンクされた文書データが、他の編集モードで編集された場合にでも最新の文書データを前記著作ファイルにリンクさせることが可能。	明 星

## ナノテク・材料

管理番号	発明の名称	応用分野・利用市場	発明者
0812-32	カラーフォーマー、オルガノゲルおよび放射線検出材料	固体状で使用でき、かつ検出感度も高い放射線検出用発色剤に適した化合物を提供することができる。さらに本発明によれば、この化合物を用いて作成したオルガノゲルを提供でき、このオルガノゲルは、放射線検出に用いることができる固体状の材料である。	太 刀 川
0809-18	フェライト微粒子の製造方法	加熱炉内において脂肪族ヒドロキシ多価カルボン酸が自己燃焼し、それによる発熱がフェライト形成の熱量の一部となるため、短時間で効率よくフェライト化反応を促進させることができる。更に、基本的に超音波噴霧法であるから、従来技術と同様、装置の大型化が容易で大量生産に適する効果もある。	平 塚

\*「エネルギー・環境」、「製造技術」、「社会基盤」分野の出願特許は、次号(31号/平成22年1月1日発行)で紹介する予定です。

# お知らせ

## 埼玉大学創立60周年記念事業プログラム

開催日	催し物
H21.10.18	埼玉大学・スポーツ・感動物語「第1回 柔道メダリストを育てて」 於：さいたま市ブラザウエスト
H21.10.24	連続市民講座「ゲノム研究の現在—埼玉から世界へ—」
H21.10.24～12.10	歴史で綴る埼玉大学企画展
H21.11. 1	埼玉大学・スポーツ・感動物語「第2回箱根駅伝と陸上物語」 於：さいたま市ブラザウエスト
H21.11. 1～11. 3	創立60周年記念フェスティバル (第60回むつめ祭と同日開催)
H21.11. 7	埼玉大学・スポーツ・感動物語「第3回ダンス日本一への道」 於：さいたま市ブラザウエスト
H21.11.15	コンサート「第6回埼玉大学フレッシュコンサート—埼玉りそな銀行との共催—」 於：埼玉りそな銀行本店講堂
H21.11.28	連続市民講座「戸田ポートコースの水質浄化作戦—淡水産真珠貝を利用して—」
H21.12. 6	埼玉大学・スポーツ・感動物語「第4回浦和でサッカーに生きる」 於：さいたま市ブラザウエスト
H21.12.12	コンサート「第10回音楽の贈りもの」 於：さいたま芸術劇場
H21.12.19	連続市民講座「埼玉の広報戦略—21世紀都市のブランド力と戦略広報—」

※P12、13も併せてご覧ください。

## 平成21年度 埼玉大学関連・その他の企画

開催日	催し物
H21.10. 1～12.24	後期授業Ⅰ
H21.11. 2、11. 4	むつめ祭休講
H21.12.25～ 1. 6	冬期休業
H22. 1. 7～ 2. 8	後期授業Ⅱ
H22. 2. 4～ 2.12	後期試験期間
H22. 2.13	TOEIC試験
H22. 3.24	大学院終了式(予定)
H22. 3.25	学部卒業式(予定)

## 平成21年度 産学官協議会関連企画

開催日	催し物
H21.10. 8	第1回ベンチャー講座in埼玉大
H21.10.14	第6回テクノ・カフェ
H21.11. 5	第2回ベンチャー講座in埼玉大
H21.11.下旬	第2回交流会
H21.12. 3	第3回ベンチャー講座in埼玉大
H22. 1.14	第4回ベンチャー講座in埼玉大
H22. 1.28、2. 4	ビジネスプラン発表会&相談会
H22. 2月中	第7回テクノ・カフェ
H22. 2.中旬	ビジネスアリーナ2010
H22. 3月中	第3回運営委員会

## オープンフォトリクスセミナー2009

第6回	10月26日(月) 新都心ビジネス交流プラザ 「有機薄膜光・化学センサ」 埼玉大学理工学研究科 准教授 内田 秀和
	11月24日(火) 新都心ビジネス交流プラザ 「光学研磨の基礎と応用」 埼玉大学理工学研究科 准教授 池野 順一
第7回	(12月) 新都心ビジネス交流プラザ 「レーザー干渉計測」・懇親会 埼玉県環境科学国際センター 研究所長 門野 博史

■受講料 全8回分 3,000円(資料等代)  
※指定口座に前納していただきます。受講料は、キャンセル及び欠席の場合にもお返しできませんのでご了承ください。第6回からの参加でも受講料は3,000円です。

■申込・問合わせ先  
(財)埼玉県中小企業振興公社 産学連携支援部 プロジェクト推進グループ  
電話 048-857-3901 FAX 048-857-3921  
URL <http://www.saitama-j.or.jp/opto/> E-mail [opto@saitama-j.or.jp](mailto:opto@saitama-j.or.jp)

## ベンチャー講座in埼玉大

ベンチャー創出促進セミナー「ベンチャー講座in埼玉大」を開催いたします。受講申込書に必要事項をご記入の上、FAXかE-mailでお申込みください。参加費は無料です。

■第1回  
日時：平成21年10月8日(木) 16:20～17:50  
場所：埼玉大学 総合研究棟1階シアター教室  
「起業を取り巻く環境」埼玉県創業・ベンチャー支援センター 所長 鈴木康之 氏  
「創業」(株)プロンテスト 代表取締役 奥村真知 氏

■第2回  
日時：平成21年11月5日(木) 16:20～17:50  
場所：埼玉大学 理工学研究科棟7階国際セミナー室  
「広告・宣伝方法論」さいたま商工会議所 中小企業相談所 浦和支所 支所長 浜中真人 氏  
「経営資源となり得るモノ」(株)アイ・ピー・オー代表取締役社長 内田保雄 氏

■第3回  
日時：平成21年12月3日(木) 16:20～17:50  
場所：埼玉大学 総合研究棟1階シアター教室  
「“売る”ことの難しさについて」(株)先端力学シミュレーション研究所 代表取締役会長(兼務)新世代加工システム(株)代表取締役社長 大崎俊彦 氏  
「情報が流れる組織にするには」埼玉大学 地域オープンイノベーションセンター 客員教授、Palo Alto Research Center, Research Scientist 池谷のぞみ 氏

■第4回  
日時：平成22年1月14日(木) 16:20～17:50  
場所：埼玉大学 総合研究棟1階シアター教室  
「ベンチャー企業支援政策について」埼玉大学地域オープンイノベーションセンター 特命教授 久野美和子 氏  
「金融機関のベンチャー企業支援」(株)埼玉りそな銀行 法人部 新事業支援室室長 吉澤正彦 氏

## 第6回テクノ・カフェ

今回のテクノ・カフェは、『バイオ』をテーマに開催します。日経BP社・医療局主任編集委員の宮田 満氏による特別講演「バイオテクノロジーの最新潮流～医薬から環境まで～」をはじめ、埼玉大学におけるバイオ研究内容や、研究活動の成果などを紹介します。おいしいコーヒーとケーキもどうぞ。

日時：平成21年10月14日(水) 13:30～17:10  
会場：埼玉大学 大学会館3階  
参加費：無料 定員：80名(申込先着順)  
申込方法：参加申込書に必要事項をご記入の上、FAXかE-mailでお申込みください。

発行：埼玉大学地域オープンイノベーションセンター産学官協議会

〒338-8570 さいたま市桜区下大久保255 埼玉大学総合研究機構地域オープンイノベーションセンター内  
TEL 048(858)9354 / FAX 048(858)9419 / E-MAIL [tiiki@ml.saitama-u.ac.jp](mailto:tiiki@ml.saitama-u.ac.jp) URL <http://www.saitama-u.ac.jp/coic/contents/interchange.html>



# テクノ・カフェ開催

国際競争が激しくなるなかで、技術の飛躍を目指す研究現場での研究者、技術者の発想の硬直化や技術経営の困難性が問題となっています。イノベーション創出のためには、研究者、技術者の育成はもとより、有能な技術経営者の育成もまた喫緊の課題です。そこで、技術者の育成、技術経営人材の育成について、企業、大学および地域が連携して話し合う場を設け、イノベーションの創出を目指します。

なお、今回のテクノ・カフェでは、8年間以上に亘る埼玉バイオ関係の活動や最近の研究成果、脳科学融合研究センターなどの活動状況についてもその一端を紹介するとともに、埼玉大学におけるバイオ技術関連の研究内容について展示発表を行います。

## 日時・場所等

**開催日時** 2009年 **10月14日(水)**  
**13:30~17:10**

**会場** 埼玉大学 大学会館3階

**対象者** 埼玉大学産学官協議会会員のほか、  
技術経営、産学官連携等に関心のある方

**定員** **80名(申込先着順)**

**申込方法** 参加申込書に必要事項をご記入の上、  
FAX か E-mail でお申込みください

**参加費** **無料**

## 内容

### 1. 主催者あいさつ 13:30~13:40

- ◆埼玉大学産学官協議会会長 栗原 隆
- ◆埼玉大学理事・副学長 川橋正昭

### 2. 大学におけるバイオ研究紹介 13:40~14:40

- ◆①「消化ホルモンと消化管運動(仮題)」 坂井貴文 教授
- ◆②「アカパンカビにおける遺伝子ターゲティング法」 畠山 晋 講師
- ◆③「糖鎖を基盤とした抗インフルエンザ薬の開発」 松岡浩司 准教授

### 3. 特別講演 14:40~15:40

「バイオテクノロジーの最新潮流」

—— 医薬から環境まで ——

日経BP社 医療局主任編集委員 宮田 満氏

### 4. コーヒーブレイク(コーヒーとケーキなど) 15:40~16:10

- ◆各研究者パネル展示
- ◆都市エリア事業での活動・研究成果に関するパネル展示
- ◆脳融合科学研究センターの活動展示
- ◆環境科学研究センターの活動展示 等

### 5. バイオ関係の研究活動・成果等の紹介 16:10~17:10

- ◆①「高速分子進化と新型マイクロアレイMMV(仮題)」 西垣功一 教授
- ◆②「脳細胞活動の可視化」 中井淳一 教授

### 6. 閉会のあいさつ

- ◆埼玉大学産学官協議会副会長

埼玉大学キャンパスマップ



問い合わせ先 TEL:048-858-9354  
FAX:048-858-9419  
Email:tiiki@ml.saitama-u.ac.jp

主催：埼玉大学地域オープンイノベーションセンター産学官協議会 後援：(株)埼玉りそな銀行・産学連携支援センター埼玉